

兩市街があり舊市街はボンファト (Bonifato) 山の北の斜面にサラセン人によつて九世紀の昔に建設されたものであり、新市街は一二三三年フレデリック (Frederick) 二世がムーア人を破つて勝利を得た後に山麓に建設したものである。この地方は肥沃なる農地である。人口三萬二千餘。

アルカンタラ (Alcantara)。西班牙の都會。

カーセレス (Cáceres) 州にあり、タグス (Tagus) 河の南岸にある。カーセレス市より西北三五哩の距離にあり、迫持を六つもつ羅馬時代の橋がある。有名である。橋の長さ六一七呎、幅二六呎、中央の柱の高さ約一九〇呎ある。一〇五年に初めて架せられ、一八六〇年全部改築された。サンタ・マリア・デ・アルモコバル (S. Maria de Almocobar) と云ふ教會はゴシック式の建物であつて、十三世紀の建造に係る。人口三千餘。

一二一七年にはアルカンタラと稱する宗教的

騎士團が組織されこの町名をとつて團名となした。この團體は十三世の初めに組織され、其後度々禁壓されたが現今の組織は一八七四年より始つてゐる。

アルカンタラ (Alcantara)。ブラジールの都會にして海港。マランヤーン (Maranhão) 市の西北一六哩の距離にあり、灣は甚水淺くして貿易に便でない。輸出品は珈琲・木綿・獸皮及び鹽である。人口一萬六千。

新著紹介

○岩石鑑定實驗書 上治寅次郎著

四六版 一二三頁

京都帝國大學水曜會發行

丸善株式會社發賣

一月 定價 六十錢

岩石の鑑定書は從來表にあらはしたものはあつたが學習者には表を用ふことが素養を要することであるから一般には使用し難いもの許りであつた。茲に京都帝國大學工學部助教授上治君の好著を得て、地學研究者に大きな便宜を與へるこ

とになった。内容は岩石の外観鑑識、礦物顯微鏡の取扱法、主要造岩礦物の種類、主要岩石と其の特質、石材の五章から成つて居る。附録の索引は二十三頁に亘つてゐて至極便利なものである。唯惜しむらくは石材ばかりでなく有要岩石とも云ふべきマグネサイトや蠟石等工業用岩石を特別の項目として記述されなかつたことである。(S)

○日本鳥瞰圖 第五輯

西村健二著 東京向柳原東京郁成館發行
昭和九年一月 一組 三圓五〇錢

數度紹介した鳥瞰圖が續刊された。収むる所、(1)先志摩及宇治山田、鳥羽地方の洪積層より成る段丘と古き地層から成る山脈との美しい對照を表はしたもの、(2)武藏野西部及相模野附近の地形に人文に多くの啓發を受ける關東平野の西邊、(3)廣島縣東部油木地方の隆起準平原面と構造谷とを示した開析山地、(4)湖水の成因が地形から暗示される田澤湖、(5)首都東京の地貌と大東京市の三十五區が如何に配置されてゐるかを明瞭に示したもの、五葉であつて此等は地理教授に當つて恰當な掛圖であるばかりでなく大東京の如き是一般國民が座右にかゝげて首府を凝視し、日本の動きを見まもる上に甚だ必要なものである。此等を通覽して本圖集の續刊を冀望するものは獨り紹介子のみではないのは明かである。(S)

○地 震

松澤武雄著 岩波書店發行 定價八拾錢

本誌一月號に和達博士の同名の書を紹介した余は今また岩波全書の一冊にして同程度の本書を手にして讀書階級の爲に廣賀に堪へなく思ふ。前書とはその内容性質を全然異にする故に併讀を希望する。本書の特徴は地震を現象學的に記述しあらゆる事を百科全書的に述べた點にあり、委しい分布や年代表もあつて讀者の參考となることが多い。數式は甚だしく記事の特殊にして重要なものには文獻が掲げてあるから深く究めんとするにも都合がよい。原因論や現象間の法則のやうな想像を混へたものは省いてある。日本の内部に鬼怒川地震帶等々を記さずに「大きく見れば日本の島弧は一つの地震帶である。日本の中でも詳しく見ると地震の頻繁に起る所と稀な所とが自らある。日本の地震帶の詳しい決定については古くから故大森博士・今村博士等の苦心調査の結果がある。所によつては漠然とぼかした區域を示して置く方が真相に近いものもあるべく、強ひて震源の群を細い曲線でつないで地震帶を作らうとすれば、趣味により見解の相違によりデイトの多寡によりいろ／＼ちがつたものも出来るであらう。」と記し、又地震の際の所謂斷層に就いて「乾天に際して稻田に生ずる龜裂を目撃する人は恐らく之を斷層とは名づけずして單に地割れと呼ぶに相違ない。或人は土層のみならず岩盤まで切つてゐるのが斷層だと云ふであらう。けれども岩盤を切つてゐるのか見分けることは通例容易でない。地表に露出してゐる岩盤も力學的條件によつてはヒビの入ることや沁り落ち

ことも皆無とはしない。稻田の乾割れも蟻の國では斷層であるに違ひない。然らば人間の世界の斷層は如何なる大いさが目安となるか。」といったやうな調子の中に傾聴すべきものがある。三〇七頁の充實したものであるが索引のないのは本の性質上遺憾千萬である。(尾山生)

○地質學便覽

藤本治義編

新四六版

一二五頁

古今書院發行

定價一圓

編者が嘗て出された同名小冊子の姿内容を全然改革して出した増訂新版である。第一章は七頁に亘り地球の形や元素・原子量等の基礎的資料を掲げ、第二章は二七頁をさいて主要礦物に就いての簡潔な記載で、主要造岩礦物たる長石・輝石・角閃石では光學的定數ものをせてある。慾を言へば橄欖石その他についても光學的性質を記して顯微鏡使用の際の便覽に供したかつたと思ふ。第三章二〇頁は岩石で、この後に鐵床分類の一章もほしい。第四章三五頁は古生物で、從來の邦書には見られない委しいよい表が澤山有つて次章と共に本書の重心ともなり特色をなしてゐる。第五章三〇頁は地史學で本邦各時代の地層表など新鮮で仲々詳細である。あとは附録として實際地質圖・斷面圖等の作製に便利な三角法公式や數值表で八頁を占める。全篇に亘つて編者の苦心の程が充分汲まれるし印刷技術も骨が折られて居り、地學に志す者は勉強の座右

に或は旅行のポケットに缺くべからざるものである。同時に教授者として之を利用すれば程度の高い授業を満足に行ひ得るであらう。敢て此の一冊を讀者が備へられんことを薦める。(尾山生)

○周防國府の研究

三坂圭治著

東京積文館發行

定價四圓二十錢

周防國府の舊蹟は防府町大字東佐渡令にあつてその都城の境域は今の防府町を中心として六ヶ町村にわたる所の宛然たる一大都市であるが、その中心たる國府の所在地は今の三田尻の東北に於て國道の南に存し國衛土居八町四方といふものであつた、その中に宇國衛といふ一區があり、これを貫いて南北に朱雀町が通じてゐる様子は、周代の王城九經九緯に近いプランである。本書はさうした舊府の外に平安朝・鎌倉時代、南北朝・江戸時代各期の國府の盛衰をのべたものであつて、近頃快心の地誌である。筆者は本書によつて我國都城の發達に關して多くの教を得たことを喜び、江湖にこの書を推奨し三坂文學士の努力に感謝する。(藤田)

○江戸時代の科學

東京科學博物館編

博文館發行

定價四圓五十錢

本書は昭和九年一月の新刊で總説、和算、天文曆術、本草、醫術醫學、地理、礦業地質、銃砲、電氣、印刷寫眞、鐵道造船建築、及雜の十二章から成立し、何れも江戸時代文運の

進歩をしめたもので挿畫に珍らしいものが多い。地圖の中にでも、平賀源内の萬國圖皿・安政三年の日本製地球儀などをはじめ著述された内外の地誌の名目が揃つてゐる。かうした三百年の文化の跡を學んで、はじめて明治維新以後の興隆日本が理解されることを喜ぶものは獨り筆者のみではあるまい。新春の讀本として一般の注意せんことを望むの情に堪えない。(藤川)

○長安史蹟の研究

東洋文庫編著二十の二 足立喜六著 圖版共十二圖

本書は東洋文庫からの近刊であるが、著者足立氏は明治三十九年陝西省西安府陝西高等學堂教習に赴任しられたが、四十三年春まで該地に滯留して得られた實地踏査の材料を纂輯し、桑原博士の校閲を得て本書をなしたものである。四六倍版二九一頁、圖版一六九、我等この書によつて陝西省に於ける長安古城址の現状を知ることの出来るのを喜ぶ。(藤川)

雜 報

○敦圖線

敦圖線といふのは敦化、圖們(灰幕洞改名)間のことであるが、新京から羅津に通ずる京圖線で北滿と日本とを連絡するものである。滿洲事變前は吉會鐵道問題といつて會寧から吉林に通ずる鐵道敷設が中心であり一九〇七年(明

治四十年)日清兩國に締結された吉長鐵道延長の約に始まり、明治四十二年には間島協約で第六條に清國政府は將來吉長鐵道を延吉南境に延長し、韓國會寧に於て韓國鐵道と連絡すべく、一切の辦法は吉長鐵道と一律たるべしと定められたが、大正七年に具體化して日本興業・臺灣・朝鮮の三銀行から吉會鐵道借款で一千萬圓を貸與したが、そのまゝにすぎで、大正十二年に右の借款がものを云ひ、吉林敦化間二二一桿が二千四百萬圓でできた、ところが中日合辦天圖輕鐵公司の經營した天圖輕鐵は大正十三年から會寧・老頭溝・天圖間をつけたから、吉會線の未成は老頭溝・敦化間境に百餘桿に過ぎざるに至つたが、事變前の排外排日で老敦間百桿は絶望に陥つた。所が滿洲事變となつてこの吉會線に注意が向けられた、地圖を見ても明なやうに北鮮と裏日本を結ぶ最短線であつて、大阪から敦賀經由、海路清津又は羅津に至り京圖線で新京に至る距離は大連經由に比して六六〇桿乃至七三〇桿の捷路となり、旅客輸送に二十一時間の短縮となる。そこで敦化からさきをどうするかといふことになつて種々計畫した結果昭和元年には羅津に出るのがよいときまり敦羅鐵道を決定した。

敦化から牡丹江を渡つて哈爾巴嶺に達する。こゝは間島の境である。そこは坦々たる平地である哈爾巴でトンネルを通じて布流哈通河に出ると、所謂延吉平野といふ大間島の沃野である。延吉から東南に進むと長白山の支脈で磨盤山の險がある、トンネル五ヶ所を通じて難工事を突破すると終端圖